

## 2015年度 履修便覧 付録解説(楽理科)

(この解説は『履修便覧』38ページの付録です。『履修便覧』本体とともに、卒業までなくさないようにとっておいてください)

楽理科は、音楽研究の学である音楽学を専攻する学科である。現在のカリキュラムでは、専門分野として(1)西洋音楽史、(2)日本音楽史、(3)東洋音楽史、(4)音楽美学、(5)音楽理論、(6)音楽民族学、の六つを設定しており、楽理科の専門科目はそれぞれの専門分野に対する講義・演習(履修者自身による発表や討論を中心とした授業)・実習(論文指導)の組み合わせから成り立っている。

数多くの専門科目は、おおむね概説—初級演習—講義—演習という大きな流れにそって配置されており、楽理科の学生はこれらを受講する中から自己の専門分野と研究テーマを選び取り、三年次以降の音楽学実習を通して卒業論文を仕上げるのが求められている。つぎに各科目群について順に説明する。説明中、【**通年**】は通年科目、【**セット**】はセット科目を示す。【**通年**】と記入がないものは Semester 毎に完結する(=成績が付く)科目を指す。これらに関しては、Semester 単位での履修も可能だが、とくに楽理科常勤教員が担当する科目に関しては、事前に履修形態について担当教員と相談することが望ましい。

- ① **音楽学概説【通年】** 音楽学の各専門分野について概括的な知識を与える講義。1・2年次に6科目 24 単位必修。
- ② **音楽学実習【通年】** 卒業論文のための個人指導。3・4年次必修。3年次は卒業論文の仮題と指導教員決定のため複数教員の指導を受けることが可能。4年次は各指導教員の下で個別に卒業論文の指導を受ける。なお、火曜日Ⅲ・Ⅳ限に随時開催される楽理科総合ゼミナールにも必ず出席すること。
- ③ **楽書講読(英語)【通年】** 1年次必修。
- ④ **初級演習(A・B・C・D)** 調査・講読・資料作成・口頭発表などの基礎的な技能を演習形式で学ぶ科目。1・2年次に4科目から2科目以上を選択し4単位を取得する。A(日本音楽史) B(音楽美学)は奇数年、C(西洋音楽史) D(音楽民族学)は偶数年に開講する。
- ⑤ **音楽学講義** 音楽学の各専門分野に対応する、時代やテーマをしぼった概説あるいはさらに踏み込んだ内容の講義。内容は担当教員により年度ごとに異なる。2年次以降、16科目中から3科目以上を選択し12単位を取得する。各科目名と開講年度は【別表】の通り。
- ⑥ **音楽学演習** 原則として、概説と初級演習を履修し終えた3・4年次生が行なう、より専門的な内容の演習。ただし2年次生でも担当教員の許可を得た上で履修を認める場合がある。9科目中2科目以上を選択し4単位を取得する。演習を履修するにあたっては、同じ分野の講義を履修することが望ましい。各科目名と開講年度は【別表】の通り。
- ⑦ **ソルフェージュ** 1・2年次にソルフェージュAが必修。
- ⑧ **選択科目** いずれも音楽学のための基礎的知識または技能を学ぶ科目であり、この科目群から計24単位を選択履修する。それぞれ履修単位数の上限あるいは下限が決まっているので注意すること。
  - ・ **和声(I・II)【セット】** は必修ではないが西洋音楽関係分野の専攻をめざす者は履修することが望ましい。
  - ・ **音楽学関連専門基礎科目** は、専門基礎科目のうち楽理科が指定する科目を指す(『履修便覧』注4に科目名を示す)。これらを8単位以上12単位まで選択できる。
  - ・ **実技** は4単位まで履修できる。音楽の実技を学べることは本学の特色であり、専門分野に応じてきちんと履修することが望ましい。ここには副科実技(ピアノ以外は2年次から履修。ピアノ以外は【**通年**】)と楽理科開設実技科目(1年次から履修可。すべて【**通年**】)が含まれる。後者には、西洋古楽演奏、ガムラン演奏、東洋音楽演奏Ⅰ(シタール)、Ⅱ(中国琵琶)がある。東洋音楽演奏ⅠとⅡは

隔年に開講する。

- ・ **研究旅行**は、8月末～9月初にかけて1週間ほど奈良・京都を中心に、舞楽鑑賞、仏教各宗派の声明聴聞、博物館や楽器製作に関わる施設の見学などを行い、それを通じて日本音楽とそれを育んだ環境について理解を深めるための科目である（2単位、3年次を優先する）。
- ・ **楽書講読（英語以外）【通年】**は独・仏・伊・羅・日・中・露語から4単位まで選択できる。このうち、伊語・中国語は奇数年、露語は偶数年に開講する。

⑨ **教養科目** 専門を超えた幅広い視点をもつために必要な科目。一般教養科目から24単位を選択する。ただし、そのうち8単位までは専門基礎科目によって振り替え可能（『履修便覧』注5参照）。

⑩ **外国語科目** 本学で開設されている外国語科目と国語古文から、規定に従って10単位＋4単位を選択履修する。楽理科にとって、専門分野の研究に必要な言語の修得はきわめて重要であり、研究成果を発信するための外国語能力も大切である。

⑪

【別表】音楽学講義・演習 科目名および開講予定年度（2015年4月現在。変更があり得るので注意）

		開講 年次	2015 (平成27)	2016 (平成28)	2017 (平成29)	2018 (平成30)
講 義	西洋音楽史Ⅰ講義（バロックまで）	2/3	○	×	○	○
	西洋音楽史Ⅱ講義（古典派～19世紀）	2/3	○	○	×	○
	現代音楽講義	偶	×	○	×	○
	日本音楽史Ⅰ講義（古代、中世）	偶	×	○	×	○
	日本音楽史Ⅱ講義（近世、近代）	奇	○	×	○	×
	東洋音楽史講義	偶	×	○	×	○
	音楽美学講義	奇	○	×	○	×
	音楽理論史講義	奇	○	×	○	×
	音楽民族学講義	奇	○	×	○	×
	音楽音響学	奇	○	×	○	×
	音楽社会学	偶	×	○	×	○
	音楽分析論	毎年	○	○	○	○
	西洋音楽演奏史	奇	○	×	○	×
	記譜法	偶	×	○	×	○
音楽学特論Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ	随時					
演 習	西洋音楽史Ⅰ演習	2/3	○	○	×	○
	西洋音楽史Ⅱ演習	2/3	×	○	○	×
	現代音楽演習	奇	○	×	○	×
	日本音楽史Ⅰ演習	偶	×	○	×	○
	日本音楽史Ⅱ演習	奇	○	×	○	×
	東洋音楽史演習	毎年	○	○	○	○
	音楽美学演習	偶	×	○	×	○
	音楽理論史演習	偶	×	○	×	○
音楽民族学演習	毎年	○	○	○	○	